

5月29日から31日まで東京で開催された、日本超音波医学会第99回学術集会に参加してまいりました。私は、渡邊望先生が委員長を務められるキャリア支援・ダイバーシティ推進委員会企画「Early Career 部会 第3回領域横断エコリンピック 2026」において、「摂食負荷により食道裂孔ヘルニアによる心臓圧排を誘発し、食後の呼吸困難の機序を解明した一例」を発表し、金賞をいただきました。

今回の発表を通じて、超音波検査は単なる画像評価にとどまらず、詳細な病歴や身体所見と結びつけることで、患者さんの病態を動的かつ非侵襲的に捉えることのできる、非常に強力なツールであることを改めて実感しました。聴講いただいた先生方とは質疑応答を通じて活発なディスカッションを交わすことができ、セッション内でも非常に盛り上がった演題になったのではないかと感じております。

2024年度に大学へ戻ってきた際から、心エコー図検査を自分の専門としたいと考え、研修を始めました。これまで教えていただいた知識が少しずつ線となって結びつき、一症例を深く理解できるようになってきたことを、とても嬉しく思っています。いただいた金メダルに恥じないよう、今後も研鑽を積んでまいります。

このような貴重な機会を企画・運営してくださった渡邊先生をはじめ、抄録作成および発表のご指導をくださった先生方、ハートセンターの皆様に、心より感謝申し上げます。

内田暁子